市民のひろば

香・美・人⑲
上村 敬介さん（76歳）
（土佐山田町林田）

史談会結成当時からのメンバーであり、現在、香美史談会の会長を務められている上村敬介さんを紹介します。

◇　◇　◇

《史談会の誕生》

上村さんは昔から歴史に興味があり、主に近畿・中国・四国地方の歴史や地理に関する本を読み知識を深めていました。そんな折、昭和50年代に土佐山田町史が編纂され、それをきっかけに史談会が結成された際に入会した上村さん。

史談会は、会員が研究した歴史や文化などの発表や講演、一般の方を対象にした歴史講座を開催するなど、さまざまな活動をしています。上村さんは、平成11年から会長を務められ、現在は香美市内を回り各地域の歴史などを研究されています。

《歴史の魅力》

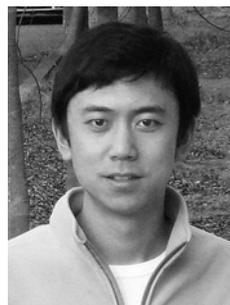
上村さんが特に興味を持って調べていることは、歴史の中であまり脚光を浴びていない人物や物事です。現存の古文書などから自分が生活をしている香美市の各集落の昔の状況を解き明かしていくことで、多くの感動と出合うことができるそうです。

上村さんは「何かひとつのことが見つかれば、そこからだんだんと想像が膨らんでいくし、関連することが解明されていく。それがとてもおもしろい」と歴史の魅力について話してくれました。

《歴史を伝えるために》

香美市となって香北町や物部町の集落を知ろうと、直接足を運ばれた上村さん。過疎化が進み、住民の少ない限界集落や人が住んでいない集落が多くあることを知りました。その集落の歴史が伝承されず廃れていく現状に胸を痛めたそうです。今後は「そのような状況の集落も含め、史談会の活動の中で香美市の全集落の歴史を研究し、後世に残していきたい」と今後の目標を話してくれました。

また、片地・楠目・香長小の授業で、講師として子どもたちに校区内の文化財等の見学や歴史を教えている上村さん。「子どもたちに自分たちの暮らすこの地域の歴史や文化を知ってもらえれば」と願いを込めて、現在まで数え切れないほどの人々が作り上げてきた歴史や文化を後世に伝えていく取り組みに尽力されています。

ただいま留学中⑲
劉（リュウ） 坤（クン）
（中国・河北省）

香美市の皆さん、こんにちは。私は劉坤です。昨年10月に高知工科大学大学院博士後期課程で「知能機械」の勉強を始めました。

私の研究テーマは、『着て使う運動センサーの開発およびその応用と、それを用いて歩行中の人間の下肢の運動速度や姿勢を推定する方法に関する研究』です。脳出血、くも膜下出血、脳梗塞などによる機能障害のリハビリに使う、小型で束縛が少なく装着できるセンサーの開発研究をしています。機械のような装置ではなく、一人ひとりが装着して使えるものだと、歩行スピードと姿勢、下肢運動角度を測定分析でき、よりよい機能訓練を行うことができると思います。まだまだ長い道のりですが、研究も進んでいます。

私は日本の歴史を勉強したり、村上春樹などの日本文学作品を読んだり、宮崎駿作品「千と千尋の神隠し」等を見たりしました。他の日本のいろいろな現代文化にもとても興味を引かれ、いつも実際に体験したいと思っています。今住んでいる香美市は綺麗な町です。季節毎のお祝い、料理、刃物まつり、日曜市など、中国と異なっている文化を体験し、そのたびに感銘を受けました。また、香美市の風景、例えば、静かな梅雨、繁茂な林、清い物部川、鏡野公園の桜、新緑、紅葉、雪山、大学の周辺の景色も素晴らしく、忙しい学生生活を和やかにして興味深くしてくれます。香美市の親切な人々との出会いも私に深い印象を残しています。この留学の機会を通じ、勉強、研究そして友達をたくさん作りたいと思っています。